

## 【道端の自然】

### 冬の木々

1月20日、緑地の木々にネームプレートを取りつけました。そのためにはまず、何の木か、わからなくてはなりません。でも落葉樹はもう葉が落ちているので、わかりにくいのです。逆にいつもは気づかない木肌が目がいけます。Kさんが「ハンノキの木肌には目玉があります」、「クヌギもコナラも木肌に凹凸がありますが、コナラの方は表面が平らで灰色っぽく見える部分があります」などと教えてくれました。確かに、目がある！ 実物がそこにあるので、納得しました。そのような眼で見ていくと、イイギリの木肌は白っぽくて、褐色の皮目が特徴的だし、シデの木は縦縞が目立つ幹です。いったいどうし



てこんな違いがあるのでしょうか？ 不思議です。樹皮は、木にとっては皮膚のようなもの。常に新しいものができてきますが、古い表皮が落ちてしまう木は樹皮がすべ

イイギリ



すべするし、古いものも落ちずにそのまま積み重なっていく木では、木が太くなるにつれて表面が割れて凹凸のある皮目ができてくるのです。幹を見ただけで木がわかるようになると、なんだか専門家になったようでうれしいですね。 (小川)



左：クヌギ 右：コナラ